



(No.709. 2023.7.1)

カトリック田園調布教会報

☎03(3721)7271

〒145-0071 東京都大田区田園調布3-43-1

故トマス小平正寿神父 追悼のご挨拶

主任司祭 ドミニコ竹内正美



五月二十三日は朝からの雨にもかかわらず、多くの信徒の皆さんが兄弟トマス小平正寿神父様の葬儀・告別式にご参列頂き本当にありがとうございました。

何時かは別れる時が来るとは分かかっていても死は悲しいものです。死は全ての交わりを断ってしまいます。親しい人との交わりを断ってしまいます。ここに憂い、嘆き、悲しみがあります。

兄弟トマス小平正寿神父様は七十九年間の生涯を終えて神様の御許へ旅立たれました。今は神様の御許で永遠の命の喜びに与っていることでしょう。

トマス小平正寿神父様の略歴をご紹介致します。

一九四四年三月二十四日 東京都世田谷区に誕生。

一九六二年 暁星高校卒業。在学中、フランス大使のアルマン・ベラール氏よりフランス語最優秀賞をいただく。

一九六七年三月二十一日 着衣式、

一九六八年三月二十二日 初誓願式、

一九七一年三月二十八日 荘厳誓願式、

一九七四年十二月二十一日 司祭叙階式。

一九七八年 ローマ教皇庁立アントニア

ヌム大学院卒業。論文「カトリック教会法

と日本民法に於ける婚姻法の比較」

一九八一〜一九八三年 北浦和修練院で修

練者にラテン語を教える。

一九八三〜二〇〇〇年 中目黒教会で司牧。

一九八三〜一九九六年 在世フランシスコ

会南関東地区総補佐司祭。

一九九六〜二〇一四年 三軒茶屋教会で司牧と六本木本部修道院にて翻訳の仕事。他、癒しのミサ担当。

二〇一四年六月より田園調布教会の協力司祭として働き、レジオ・マリエの指導司祭として、また、エクレシア・アンサンブルの指導司祭としても働いておられました。信徒の皆さんの霊的指導も行っていました。



帰天までの最後の日々について

今年の二月頃、小腸検査の際、腹部動脈瘤が発見され、三月に手術のため入院しましたが、手術後の検査で食道に小さい腫瘍が見つかり転移と診断され、通院のかたちで抗がん剤治療を開始しました。

しかし退院後一回目の抗がん剤治療後のどの痛みを訴え食事が取れない状態に急変、入院とともに放射線治療を開始しましたが、その時、数日の間に食道の腫瘍が急激に成長し手術は難しい、点滴による栄養の供給で体力を維持しながら放射線治療を継続すると主治医の先生から診断をうけました。

何日もたたないうちに病院から肺炎で危険な状況であるとの連絡があり、何とか持ち直しましたが、原因はがんの全身転移ということで、今後の治療は無意味であるとの説明を受けました。

四月七日に兄弟トマス小平正寿神父様は緩和ケア専門病棟のある病院に転院しました。緩和ケア専門病棟は一般病棟と違って、全く緊張感のない明るい雰囲気です、できる限り入院中の方の希望をかなえようと

してくださり、そのような雰囲気の中で、兄弟トマス小平正寿神父様は自分の生涯の記憶をたどりながら一つ一つのできごとや経験を私たちに話しながら小さき兄弟としての召命の完成に少しずつ向かい始めました。

緩和ケア病棟で一ヶ月あまり過ごした兄弟トマス小平正寿神父様は徐々に衰弱、五月十日ごろから発熱と呼吸不全の状態が続き、管区長と共に病者の塗油の秘跡を行いました。

最後の面会は五月十七日(水)でした。全く食べられない状態でしたが、卵焼きの風味について話しながら懐かしがっていた兄弟トマス小平正寿神父様のために、二種類の卵焼きを作ってもらって面会に行きました。衰弱して会話すらできなくなっていました、意識はしっかりしていて私たちに

何かを話そうとしていました。うまく話せない状況がしばらく続いた後、兄弟トマス小平正寿神父様は数分間私たちの手をとって何かを伝えようとなりました。口の動きから考えてみたら、おそらく「ありがとう」と話し続けている様子でした。

それから聖フランシスコの祈りを読んであげますか、と尋ねてみたら、うなずかれたので聖フランシスコのダミアノ教会の十字架の前での祈りをゆっくり読み上げました。

二日後の五月十九日、六時十五分ごろ呼吸が止ったとの連絡を受け、兄弟トマス小平正寿神父様の元につけました。呼吸は止まったまま、とても穏やかな表情でした。私たちは主治医が死亡を宣言するまでの間、師父聖フランシスコの遺言を読み上げました。

八時五十七分、主治医から死亡が宣言され、兄弟トマス小平正寿神父様は完全な喜びに結ばれた小さき兄弟、完全なフランシスカンとして天の国での誕生を迎えました。

トマス小平正寿神父様は温厚な方で、信徒の皆さんからも大変に慕われていました。とても真面目な顔をして、人々を笑わせるのが得意な方でした。

約十年間カトリック田園調布教会の協力司祭として働かれた兄弟トマス小平正寿神父様は貴重な存在感を信徒の皆さんに印象付けたことと思います。

皆さんのお祈りの中で、兄弟トマス小平正寿神父様を思い起して頂けたら幸いです。本当にありがとうございました。



〈信徒連絡会〉六月十一日議事録

◎竹内主任神父様のお祈りとお話

〔報告・今後の予定〕

◎六月四日（日） 三位一体の主日、教会委員会

◎六月十一日（日） キリストの聖体、初聖体（九名）、十六時 信徒連絡会

◎六月十八日（日） 窓ふき、大掃除

◎七月二日（日） 教会委員会

◎七月九日（日） 信徒連絡会

〔各会報告など〕

◎典礼委員会

・ミサの正常化へ、祈り・聖歌などを再開しています。昨年待降節からの式次第の変更に伴い、歌も変更されているため、十月くらいまでを目処に、会衆の練習なども含め、スケジュールを検討しています。八月からミサ前のアナウンスを廃止し、ミサ前の祈りを復活、拝領前のアナウンスから手指消毒の個所を廃止して

います。

・五月二十一日に朗読研修会を実施いたしました。また、六月十一日の初聖体の準備も行いました。

◎財務財政委員

・六月二十五日（日） 上期決算予定。

・当日は印刷室を決算作業で使用します。
・まだ活動を始めていないなど、仮払いを受けていない活動会についてはメールで報告を完了し、当日の決算作業への参加は不要とします。

・活動会予算の仮払いをせずに立て替えた領収書を持参されても現金精算は致しかねます。事前に活動会予算の仮払いをお願いします。

・六月から電気代が値上がりしています。無理のない範囲で節電・節約にご協力ください。

◎福音宣教委員会

・初めて教会を訪れた方のための聖堂受付・カテキスタの会と協力して、九時、

十一時ミサ開始前の聖堂受付を開始。ミ

サのあずかり方などをご説明し、簡単なB5の案内（カテキスタの会作成）をお渡ししています。

・聖堂内マリア像前のロウソクを、財務財政委員会とも協力し再開しております。

◎福祉委員会

・多摩川生活困窮者支援の会にカリタス東京より食品ボックス十セット二十箱の支援が有りました。また、中原教会パトロールの会、NPO法人ポセイドン&チルドレン協会とも協力体制のもと行っています。

・会合が可能になってきましたので海外宣教委員会の報告会実施に向けて阿部慶太神父様と連絡している段階です。できれば九十月を考えております。

◎バザー委員会

・五月二十一日第一回打ち合わせを実施。本年度のバザーに関して、開催可否、開催の場合のやり方などを検討していま

す。これまでのバザーの形にとられず、また安全に行われるよう検討しています。次回六月二十五日の委員会には、皆さま是非ご参加願います。また周りの方の意見を集めて参加いただければと思います。

・ 次回打合わせアジェンダ

- ー 二〇二三年バザーの目的の検討
- ー コロナ前のバザーとの相違点の確認
- ー 出店間の距離
- ー 出店数の減少と調整
- ー 新しい試み案の検討、等

◎施設部会

- ・ 信徒会館の空調設備の更新の検討を始めています。三階などは空調が使用できません。改修は早くとも本年末の見込みです。

◎地区集会

- ・ 五月二十四日(水) 地区集会連絡会を行いました。
- ・ 竹内神父様、金神父様、十一地区のお世

話係十八名、教会委員 計二十二名が出席。

- ・ 指導司祭の負担軽減の為、八個に分かれていた地区を曜日毎にまとめて四個の会にし、神父様のお話を合同で聞いた後、各地区に別れて分かち合いをすることとします。

- ・ 活動は八月を除く隔月とし、地区により六月～十月に開始します。



◎教会学校

- ・ 八月二十日(日)～二十二日(火)の二泊三日の予定で教会の山の家でサマーキャンプを検討しています。

「検討事項、経過報告など」

◎教会学校サマーキャンプ開催について

- ・ 開催予定の概要を教会学校より説明頂き、次の事柄の対応するよう依頼しました。

- ・ 地元の教会の方々々と緊急時のための事前連携体制をとる。
- ・ 事前健康状況確認シートの作成。現地で体温チェック
- ・ 発熱者への対応方法
- ・ 子供のみならずリーダーなどへの配慮(テント使用方法含め)
- ・ 人数制限も視野に入れる。

◎合同堅信式(五月二十八日 カテドラル)

- ・ 東京教区七〇名に加え韓人教会四〇名の計一一〇名の方が堅信を受けられました。田園調布教会からは八名(中学生五名、成人三名)の受堅者が式に臨み、竹内神父様、教会委員九名が参加してお祝い致しました。

◎初聖体(六月十一日)

- ・ 対象者十名の準備を行いました。

◎窓ふき・大掃除

- ・六月十八日(日)九時ミサ後に行います。一人でも多くの方々のご協力をお願いいたします。

◎敬老の集い(九月十七日)

- ・七十七歳以上の方々を対象として現在準備開始しています。お楽しみにしてください。

◎各会の活動再開について

- ・有志による福祉等の活動の再開については、実施時期(夏以降が望ましい)・内容等をご記入のうえ(様式は自由)、信徒会館受付にご提出ください。コロナ前に戻すだけではなく、新しい形にすることもご検討ください。

次回の信徒連絡会は七月九日 十時十五分、大聖堂にて(八月はお休みです)

教区合同堅信式二〇二三

受堅者の皆様、

おめでとうございます。

五月二十八日(四時半より東京カテドラル聖マリア大聖堂にて東京教区合同堅信式が行われ、菊池功大司教の司式のもと、合計百十名の方々が受堅されました。

当教会からは四回の勉強会をもって、当日八名の方が受堅されました。

コロナ禍を経て、聖堂一杯の参加者とともに堅信のお恵みと喜びを分かち合うミサとなりました。

教会委員会



いつも喜んで

成長していくことができますように

喜びのマリア M・S

堅信式の翌日の月曜日、堅信を受けたことを、お友だちと一緒に校長様のシスターにお伝えしようと思い、校長室のドアをおそるおそる叩いてみました。

シスターはいらっしゃいませんでした。次の日、また校長室に行ってみました。シスターはお忙しいのか、不在でした。そのまた次の日の水曜日、お昼休みの時間に校長室を訪ねました。そうしたら、とうとうシスターが中から出ていらっしゃいました！

お友達がカンペを出してくれたので、私はドキドキしながら「聖霊降臨の日に、私たちはカテドラルで堅信のお恵みを受けました」とシスターに報告すると、シスターは「それはおめでとうございます」と、すぐにお祝い言葉をくださいました。

そして、「ところで、堅信とはどのような恵みですか？」とおっしゃったので、私たちは竹内神父様に教えていただいたことを思い出しながら話しました。

私は生まれて三か月で洗礼を受けました。もちろん洗礼式のことには覚えていません。

堅信式は、中学生になった私が、自分の意思でカトリックの信仰を続け、深めてい

うと決心する場であること、そのために神様からたくさんのお恵みをいただけることを、校長様にお話ししました。すると、シスターは「そうですね」と、にこっと笑ってくださいました。

堅信名を決める時、私は「自分の意思で」洗礼名と同じにしました。「喜びのマリア」という霊名がお気に入りだからです。

マグニフィカトのお祈りからとったこの霊名を堅信名として再びいただき、「いつも喜んで」聖霊の招きに応え、神様のみ旨にかなうように成長していけるよう、励んでいきたいです。

田園調布教会から遠いカテドラルまで来てくださった竹内神父様、代母の方、教会委員の方、教会委員長さん、皆さま、私たちがのためにお祈りくださり、本当にありがとうございます。

堅信のお恵みをいただいて

マリア クララ N・J

私は、四歳の時に幼児洗礼を受けました。四歳の私は、「洗礼を受けたい」と言ったのだそうですが、覚えていません。ですから、気づいたら信者になっていたようなものなのかもしれません。

当時はシンガポールに住んでいて、一時帰国の時に洗礼を受けました。シンガポールでは、日本人の教会はプロテスタントしかなかったため、カトリックとは少し雰囲気の違いがありました。

八歳の時に帰国し、田園調布教会に通うようになり、小学三年生の時にお友達と一緒に初聖体を受けることができました。教会学校での活動やお友達との関わりは、とても実りあふれる、神様の贈り物のよう感じました。今は、カトリックの学校に通い、神様が私とともにいてくださることを日々感じながら過ごしています。

いつの間にか信者になって、その後も楽しくとても自然な形で神様を身近に感じられる生活を送ってきましたが、今回の堅信は親や周りの人からではなく、自らの意思で考え、決心をしなければなりませんでした。今までとは違い、責任と自覚が伴うため、大変重要なことのように思い、立ち止まって悩んだ時もありました。

その時に、勉強会での学び、日々の祈り、教会での出会いに背中を押され、決心することができました。

当日、学校の制服に身を包み、大司教様の前に立った時は身が引き締まる思いでした。そして、自分の意思で真の信者に近づけたことは大きな喜びでもありました。これからは、真のキリスト信者として、ミサにあずかり、共同体としての関わりも大切にしていきたいと思えます。



堅信のお恵みを受けて

マリア ゴレットイ K・M

私は、聖霊降臨の主日に、カテドラルにて、堅信のお恵みを受けることができました。厳かなミサに参列し、改めて自分の信仰と向き合い、菊池大司教から祝福を頂いた瞬間の感動を、私は生涯忘れることはないと思います。

そんな私ですが、実は今回堅信を受けるかどうか迷った時がありました。中学に入ってから、初めてのテストが翌々日からあることで、勉強が不安だったこと。四回のお勉強会に参加することにも自信がなかったことが理由です。しかし、学校でも仲の良い友人と一緒に受けると聞いて、「せっかくの記念に一緒に！」と気持ちが変わり、申し込むことにしたのです。

また、今年初聖体を受ける弟が、一生懸命に準備をしていることも、私にとって大きかったと思います。弟は、まっすぐで、

とても素直にイエス様を信じていて、お勉強会にも熱心で、「私も負けていけない！」と思ったのも、正直なところですよ。

四回の竹内神父さまによる、ありがたいお勉強会を経て、当日を無事迎えることができました。

当日は初めて入ったカテドラルの荘厳さに圧倒されました。うれしかったことは、当日のおミサを、学校のお友達や先輩が侍者としてお手伝いしてくれたことです。教会に着くと、「おめでとう」とカテドラルの信者さんが温かく迎え入れてくれたのが、とても印象的でした。うれしかったです。また、カテドラルの美しい聖歌隊の歌声にも、感動しました。

私はこの日、信仰で強く結ばれた優しく温かな家族、代母さん、友人たちに囲まれて、とても幸せな気持ちになりました。これをこれから先の信仰生活の糧にしたいなと思います。

私の堅信のためにお手伝いしてくれました様に心から感謝をお伝えしたいです。



堅信の日の祈り

セシリア K・M

元々プロテスタント信者であったのですが、ご縁があつてこの度カトリック信者と

なりました。当日は天気も良く、晴れ渡った空と街路樹の緑が素晴らしいコントラストで清々しい気持ちで関口教会につきました。

One God, one faith

ずっと今までそばにいてくださった神様、これからも私のそばにいて下さい。また、世界中の人々が神様の下で一つになれますように。

堅信式を受けて

洗礼者ヨハネ A・R

僕は二〇二三年五月二十八日に東京カテドラル聖マリア大聖堂にて堅信式を受けました。東京カテドラル聖マリア大聖堂はオーストラリアにあるオペラハウスのような形をしていて、とても広かったです。

中に入るとひんやりとした空気が教会を包んでいました。窓からは柔らかい風が入り込んで、温かく迎えてくれました。

堅信式のミサでは多くの神父様が入場され、その中には竹内神父様もいらっしゃいました。その中でも、ミサの神父様は、タルチオ菊池功大司教でした。

幼い頃から田園調布教会のミサに与っている中、毎回「タルチオ菊池功」という名前が出てくるので、どのような方なのか気になっていましたが、ようやく知ることができました。

厳粛な雰囲気の中、ミサが執り行われました。ミサの形式は、堅信式を除いたら普段のものとは変わりませんが、ほとんど歌のミサだったので、時間はとても長く感じました。

堅信式はミサの途中に行われました。代父の方と参列し、僕はタルチオ菊池功大司教に聖油を塗っていただきました。塗られた時はものすごく緊張していましたが、席に戻る間に緊張が解れました。堅信を受けた後のミサは神様に近づいたような

気がして、神様にお祈りが十分に届いたのではないかと思いました。

最後にこの堅信式を受けるにあたり、支えていただいた田園調布教会の教会委員会、教区合同堅信式担当の皆様、そして堅信式のための勉強会で色々なことを教えていただいた竹内神父様、赦しの秘跡を受けさせていただきます。この度は本当にありがとうございました。



主のお導き

クリスチャーノアナスタシオ K・K

ライしましたが、全く理解できずに、すぐに挫折してしまいました。

私の母校は、東京カテドラルの隣にあります。私はそこで中学と高校時代を過ごしました。在校時に国語の授業で読んだ遠藤周作氏の「沈黙」に強烈なインパクトを受け、キリスト教に興味を持ちましたが、その当時、自分が将来カトリック信徒になるとは夢にも思ってもいませんでした。

それから三十年、色々な人生経験を積み、人生の折り返し地点を過ぎた四十五歳の時に長崎に旅行へ行き、いくつかの教会や遠藤周作文学館を訪れ、もう一度本気でキリスト教に向き合ってみようと思えました。その後、函館にも行き、泊まったホテルの最上階にある風呂に浸かりながら、その面前にある山並みを眺めていた時に「あつ、神がいる」と感じました。

とはいえ、自分なりにキリスト教を勉強しましたが、クリスチャンホームで育ったわけではない私にとって、神を信じることすなわち「望んでいる事柄（神）を確信し、見えない事実（神）を確認する」（ヘブライ人への手紙二：一）ことが難しく、知識として神を知ることができても、信じることができませんでした。聖書にも何度かト

まさに「見えない神を確認した」瞬間でした。それから、それまで分からなかった聖書の意味が「目から鱗が取れた」ようになるようになり、毎日紐解くようになりました。

その後、約一年間の求道生活の後、ついに今年四月八日に田園調布教会で洗礼の恵みにあずかることができました。

そして、五月二十八日に思い出深い地である東京カテドラル聖マリア大聖堂で堅信の恵みにもあずかることができ、信徒としての本格的な生活が始まりました。主の導きと皆様のご支援に感謝申し上げます。

「あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は計らい、あなたの正しさを光のようにあなたのための裁きを、真昼の光のように輝かせてくださる。」（詩編 37:5）



初聖体式2023

今年には十名の子どもたちが初聖体にむけてのお勉強をはじめ、キリストの聖体の日である六月十一日の九時ミサにおきまして九名、聖週に一名の初聖体式がおこなわれました。

四年ぶりに教会の信徒のみなさんと一緒にこの日を迎えることができ、とても嬉しく思います。

教会委員会



初聖体を受けて

ミカエル K・A

ぼくは、初聖体をうけるためのべんきようをして、たくさんかみさまのべんきようをしました。ひせきのことや、イエスさまのたんじよう、そして聖体のことをしりました。そして、ひせきや聖体は、かみさまのこしたすごく大切なものなんだとわかりました。

ゆるしのひせきの日、リハーサルをした後、自分の罪を洗い流してもらいました。かみさまに、罪をゆるしてもらい、そのときかみさまにすこし近づけた気がしてほっと安心しました。

おミサ当日に、イエスさまの体をはじめていただいて、もっとイエスさまの近くに行けた気がして、とてもうれしかったです。これからも、イエスさまのようにあいし、イエスさまのように思い、考え、行動しようと思います。

いつまでも光の子のように生きていきたいと思えます。

はつせい体でよかった事

使徒ヨハネ T・K

キリストのべんきょうをしました。その中で楽しかったのはゲームです。大聖堂の中にあるカードをしんけいすいじやくで楽しむあそびで、きおくもおぼえなくてはならないのでむずかしいです。

次は、はつせい体です。れんしゅうをがんばりました。とくにがんばったのは、きょうどうきがんです。声がきんちようして小さかったけれども、本番でうまく声をだしてよめてうれしかったです。

パンをはじめたべましたがおいしかったです。



勉強を終えて

アツシジの聖フランシスコT・S

キリスト教の勉強を学べることができてとてもいい内容となりました。普通の学べない授業なのでとてもためになりました。

これからもキリスト教の勉強をしていくと思うので、習ったことを忘れずにいきたいと思えます。また日頃の生活にも役立てていきたいと思えるような授業でもよかったです。

初聖体勉強を終えて

フランシスコ T・R

ぼくは、キリスト教の学校に通っていて学校の宗教の時間に神さま、イエス様について学ぶ機会が多いです。けれど、田園調布教会の勉強会では、七つのひせきやミサの「ことの典礼」、「感しやの典礼」などはじめて学ぶことがいっぱいでした。神様についてよく分かりました。

勉強会ではむずかしい事ばかりでなく、カードを使って神様にかんするクイズをしたり、小見戸さんがギターをひきマラタをみんなで歌ったりと、とても楽しい時間をすごせました。

初聖体当日、キリストのご聖体である白い丸いパンをいただく事が待ち遠しく朝からとてもきんちようしていました。

ミサでは、神さまへのお手紙の色紙を持ってぶ台に上がり、神父様がたから祝福してい

ただきともうれしかったです。
みなの前でいただいたパンは、思っていた以上に口の中でずつとけてすぐにぼくの体にしみわたりました。自分だけのためではなく世界平和のためにもお祈りしようと思いました。



はつせいたい

マリア Y・A

さいしよは、すこしきんちようしていたけどやってみたらたのしかったです。たのしみにしていたパンがたべられるようになってうれしいです。

パンがおいしかった

ルカ K・R

パンをもういつかい食べたいです。べんきょうむずかしかったです。

教会の感想

フランシスコ T・R

ぼくは、教会で学ぶまでは、聖体とは何か、ミサとは何かあまり分かりませんでした。教室で学んで、聖体はイエス様の体で、ゆるしのひせきでゆるしてもらって、つくることができると知りました。

はじめて聖体をもらった時、食べ方をしっかりきれいにできるか心配しました。食べたあと、これからもミサに行つて、悪いことをしたら、ゆるしのひせきでつぐない、悪いことをせず、やさしく生きて、イエス様のごぶことができたらいいなと思いました。

イエス様によるこんでもらえるような生き方をすると、やさしく、平和にくらせると思います。

これからも、ミサに行き、イエス様によるこんでもらえるような生き方をすると、思つて生きていきたいです。

はじめてのご聖体

アヴィラのテレジア A・M

私は、六月十一日にはじめてイエスさまのご聖体をいただきました。いただいてみてイエスさまが心の中にいるんだな、やつと三年生になつていただけた！とおもいました。

「聖体のあじは、一週間たつたいまでもおぼえています。おせんべいみたいでおいしくて、すぐ口でとけました。」

七回のおべん強は、大へんだつたけれどお友だちができてなかくよくなれて、楽しかったです。

「これからは、イエスさまの子どもとしてやるべきことをやる、しっかりしたお姉さんになりたいです。」

ずっとわすれない

アントニオ M・Y

今日は「はつせい体」の日でした。

ぼくが今日この日をむかえることができたのは、小見戸先生や教会委員の方たちのおかげだと思います。

ぼくは四月から、はつせい体にむけてべん強をしてきました。小見戸先生のお話はわかりやすく、ぼくのしつ問にもすぐくていねいに答えてくれました。べん強の後に

毎回うたつた「マラナタ」はすきになりました。

今日はじめていただいたごせい体の味は、とてもおいしかったです。でもイエス様の体だと思うと、ふしぎな気持ちになりました。また上あごにくつついてしまい、「どうしよう」と思いました。

うれしかったのは、おいわいの花たばをいただいた時に、ミサにさんかされている方がたが、はく手をしてくださったことです。ぼくは、今日のことをずっとおぼえておきたいと思います。



しげしき
繫敷教会 五島福江島

写真・文 柳沢 洋子

二十数年前から長い間温めていた五島への旅を今年の五月末にようやく実現することができました。

十数年前に一度、下五島だけで計画しましたが、母の具合が悪くなつて断念、三年前には全五島制覇を夢見て、全て予約も済んだところで、コロナで断念。

もういつそ既成ツアーの三泊四日で、とも思いましたが、体力のある内にどうしても全五島制覇の計画実行をと決意して、長崎を含めて一週間の強行スケジュールで出かけました。

連休を避けたつもりは五月末でしたが、このところの気候変動のおかげで九州北部は早くも梅雨に入ってしまった、おまけに南太平洋にいる強力な台風二号の影響を受けつつ前進すると言う状況下で、海も鈍色、星も見えない夜空ではありましたが、無事

に五島と長崎の教会巡りをできたのは大きなお恵みと深く感謝しています。

朝の弱い姉を叱咤しながら羽田を朝一番に出発、時間節約のために、長崎からは飛行機で五島福江島に飛びました。

そのまま予約した観光タクシーの運転手さんと行きたい教会の順番をその場で打合せ、先ずは沖繩返還までは日本の最西端だった大瀬崎灯台まで行き、戻りながら順番に教会を廻ってもらうことにしました。



運転手さんは口の重い方ではありませんが、途中だから繁敷教会はどうか、と提案してくれました。

本当は行きたい教会ではありませんでしたが、ネット上の地図をいくら拡大しても道が見当たらず、お願いするのも諦めていたのですが、行ってみましょう、と言っていたら、嬉しかったのです。

ところが、繁敷ダムを過ぎると車一台分の細い山道で、分かれ道のところの小さい案内に「繁敷教会まで2.4キロ」とあってから、行けども行けども心配も無く、さすがの運転手さんも「この先に教会があるとは思えないでしょう？」と言いつつ始末。

聞けば運転手さんも、この十年で繁敷教会に行くのは三回目とのこと。しかし、だいぶ上ったあたりで突然家が五軒ほど現れ、その先に繁敷教会があったのです。

十字架が壁にかかっついていなければ、教会とは分からないような建物ですが、教会の周りは野生のアジサイが咲いていて、恐らくその山道で唯一とも言える、車を方向転換できるスペースもありました。運転手さん曰く、五軒の内の一軒が信者さんで建物を手入れされているとのこと。

朝早くに出発して、ようやくたどり着いた感もあり、中に入った時の感激は今回の旅で一番印象に残ったので、ご紹介したいと思います。



野生の可憐なアジサイ



繁敷地域は一八五三年頃、信者の一家族が開墾し、その後八世帯ほどになったそうですが、明治三年からの宗教弾圧、拷問も激しくなり、集落は無人に、その後大正八年によく繁敷教会を山のかもとに再建しかし、建物はダム工事のための作業員宿舎にされ、それも昭和十八年に失火で失われ、戦後に再建した建物もダム拡張区域で取り壊し、ようやく昭和四十九年に、山の集落の中に現在の建物を作ることができたと案内板にあります。

だからこの山の奥の小さい建物の教会ではありませんが、長い苦しい歴史が詰まっています。



お御堂の中は二十畳ほどの広さでしょうか。とてもきれいに掃除が行き届き、清潔で気持ちよく、もはや教会としては閉じられてしまい、今は使われていないけれど、管理をしてくださっている一人の信者さんの気持ちと、共におられる方の存在を強く感じ、ここまで旅行してこられた機会を恵まれたことを深く感謝しました。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」という長い名前の世界遺産になってから、五島へのツアーも多く見かけるようになりました。私たちも福江島では度々ツアーのバスと行き会いましたが、さすがに山道にはバスも入れず、ツアーは世界遺産になった教会だけを巡るようです。

旅はできる限り公共交通機関と徒歩で、というケチな私でも今回はさすがに観光タクシーだったおかげで、繁敷教会を訪れることができました。

この後、さらに運転手さんの機転で、夕食難民になりそうだったノンキな私は救われたのでした。

旅は久賀島、奈留島、中通島、小値賀島、野崎島と続きますが、長くなるので、今回はここまで。